

## 美保南地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年11月20日（火）19：00～20：10
- 2 場所 美保南地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 29名  
市出席者 3名（深澤市長、乾危機管理局長、安本地域振興局長）



#### 4 テーマ 災害に強い安全・安心な地域づくりについて

#### 5 概要

（地元あいさつ）

美保南地区は人口が増えてきており、高齢化も進んできているが、生活インフラは一通り整っている地域である。しかし、地域の人にはひとたび大雨が降ると、どこかで水害が起こるのではないかと心配している。災害に備え、地域と行政のそれぞれの考え方や動き方を今一度考えるときではないかと思っている。

先日の市議会議員選挙の投票率が低かったと聞いているが、当地区でも同様であった。この投票率の低さは、行政任せにすればいいのではないかという住民意識の表れではないかと思っている。地区の4大行事である運動会、敬老祭、納涼祭、文化祭についても、人によっては行かないという声も少なからずある。このあたりがこれからのまちづくりの課題ではないかと考えている。

数多い課題のうち、防災についてもう一回考え直し、鳥取市の考えも聞いた上でまちづくりに生かしたいと思う。

（市長あいさつ）

今年は災害がたくさん発生した年である。安全な地域にしていくことは、我々行政に携わ

る者の一番重要な課題ではないかと思っている。自然が相手であるためなかなか難しいが、日頃からの備えが重要だと思っている。限られた時間ではあるが、いろいろなご意見をいただければありがたい。

## 美保南地区の取組みの説明

### <テーマの背景>

美保南地区は、千代川と大路川に挟まれた地域で、過去に幾度も浸水被害を受けているとともに、近年、大路川流域の低平地の宅地化が進行し、浸水被害の危険度が高まっている。また、記録的短時間大雨など災害の形態も従来と変わってきている中、今年7月の豪雨で被害の大きかった岡山県真備町とも地理的にも似ており、早急に防災対策を行うことが必要となっている。（西吉成町内では清水川排水機場のポンプが停止し、一部で床下浸水が発生）

### <地域の取組み>

#### ○町区自主防災会活動の活性化

これまで町内会長が兼任していた町区自主防災会会長を専任化し、それぞれの役割を明確化した。また、平成28年に美保南地区防災計画を策定し、防災リーダーを若い方や女性にお願いするなど、地域のこれからの防災活動を担ってもらえるよう取組みを進めているほか、女性防災力の向上が必要と考え、まちづくり協議会主催で研修、防災講習会を行っている。今年は女性会を中心とした約20名を対象に、明石市防災センターでの研修を実施した。今後、避難行動要支援者制度の登録を進め、支え愛マップの作成を予定している。

#### ○防災意識の向上

自主防災会主管、まちづくり協議会、区長会共催で避難訓練を実施している。また、毎年研修会や講演会なども実施しており、今年は県土整備事務所の方を招き、大路川の浸水予想と現状等についての確認を行った。平成26年には、防災マップ・てびきを作成し、全戸に配布を行っている。

#### ○円滑な避難所運営と避難所の確保

県・市の避難所運営マニュアルを参考に、地区独自の具体的で分かりやすいものを現在作成している。今年、一般企業3施設と覚書を締結し、新たな一時避難所として確保している。

#### ○防災資機材の整備

美保南地区体育館及び公民館係る防災機材の整備を逐次進めているほか、今後は小学校を中心に順次発電機、毛布、水等の資機材の整備を行っていくこととしている。

### (地元)

避難準備に関する情報等の発令に対する、住民の動き方を問題として挙げている。実際に

避難準備に関する発令がされても、正常性バイアス\*が強く働き、避難行動にブレーキがかかってしまう。そのため、住民が早めに避難行動を起こすことができるよう、今まで以上に地区や市が啓発活動を行う必要があるのではないかと考えている。我々としても、速やかな避難に向けて、地域で連携していくことが大きな課題であると考えている。

避難準備・高齢者避難開始等が発令されるタイミングについて疑問がある。今年の台風や7月の水害の際、市が避難準備の発令をされれば、当地区では速やかに対策本部を立ち上げて住民の受入態勢を取ろうという準備ができていた。しかし、市からの発令がないため、避難所の開設や対策本部の立ち上げをしない状態で過ごした。7月の水害時には、発令と同時に小学校や公民館に避難所を開設し、直近の住民の方を受け入れる態勢ができていたが、避難勧告等の発令が、大雨洪水警報発令中の夜中に及んでいた。風雨が強い段階で発令されても、高齢者の避難が困難であると思っている。発令のタイミングをどのようにされているかお聞きしたい。

※正常性バイアス…災害等といった自分にとって何らかの被害が予想される状況下にあっても、それを正常な日常生活の延長上の出来事として捉えてしまい、自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価したりしてしまう人の特性のこと

#### (市長)

美保南地区は先進的な取組みをされており、ありがたく思っている。避難準備情報等が発令するタイミングは非常に難しいものがあり、災害のたびにいろいろな情報を基に判断して出しているのが実情である。

大雨に限って言うと、主に河川や気象の情報を判断材料としている。気象台や、河川を管理している国土交通省等からもいろいろな情報が出されており、総合的に判断して避難準備情報等を出させていただいている。このたびの7月の大雨において、鳥取では初めての特別警報が発令され、全市に避難指示を発令させていただいたところである。大雨や台風はある程度予見ができるため、早い段階で自主避難所を開設し、早めに避難行動をとっていただくようお願いさせていただいている。

ただ、人間はこういった災害時に、自分だけは大丈夫だろうと考えてしまいがちで、客観的な判断がしづらくなる状況がある。最悪の場合を想定しながら、早めに行動をとっていただくことが重要だと思う。皆さんにご理解いただけるよう、啓発に努めていきたいと考えている。

#### (危機管理局長)

我々は、この地域では大路川の吉成水位観測所の水位を最も重視しており、氾濫注意水位である3.7mが避難準備・高齢者等避難開始の1つの目安である。避難勧告の目安は避難氾濫水位となる4.4mである。そして、避難指示（緊急）というレベルでは、氾濫危険水位の5.3mを目安にしている。ただ、この水位に達したら機械的に避難情報を出すというわけではなく、上流域の雨の降り方や、千代川の水位が大路川に及ぼす影響等も含めて判断してい

る。

避難準備・高齢者等避難開始から段階を追って発令できれば一番良いが、気象の急激な変化によっては最初から避難勧告になる場合もある。必ずしも順番どおりに発令していくものではないことも念頭に置く必要があると思う。夜間や風雨が強くなる前に発令できることが望ましいと思っており、早めの発令を心がけている。

(地元)

最初から避難勧告が発令されることは当然あり得ると思うが、自主防災会や地区の役員には事前に発令の可能性あることを連絡していただきたい。待機状態から急に避難勧告となると、避難方法等をどうすべきか非常に迷うことがある。

吉成観測所の水位についてもよく理解しており、待機中は地区としても様々なメディアから情報を入手している。難しい面はあると思うが、できるだけ避難準備あたりから発令できるよう努力していただきたい。空振りを想定してでも、早めに発令していただくようお願いしたい。

(市長)

空振りを恐れず、早めの避難行動を取っていただくようお願いさせていただきたいと思う。

(地元)

国土交通省が洪水浸水想定区域図というデータを公表している。今年の6月頃に新しいデータが出ており、当地区は最悪の想定をした場合、地区全体が浸水想定域内になるとされている。市の指定避難所も浸水想定区域内に入っており、市からは垂直避難で対応するよう回答を受けている。

しかし、実際に浸水した場合、避難所も自宅で避難された方も全てが孤立してしまうことが予想される。おそらく1,000人以上の孤立者が出ると思う。避難所の開設の手法は本当にこれでいいのかお聞きしたい。

(市長)

浸水想定区域は、非常に強い雨が降った場合の浸水の状況を計算して出したものである。地区によっては全域が浸水区域になる所もあるが、浸水の深さは場所によって異なるため、あらかじめ地域の浸水深を把握していただき、いざというときは浸水深の浅い所で避難行動をとっていただくことが必要だと思う。

浸水区域と考えられる地域については、その区域外に避難していただくことが一番いいが、急に雨が降り出したらそうすることもできなくなる。特に深夜未明だと、外に出て被害に遭うということも考えられるため非常に危険である。急激に水位が上がって避難行動を取る時間がない場合は、2階に避難をする、または近隣で安全だと思われる所に緊急的に避難をする、といった行動を取っていただくことが正しいと考えている。ただ、垂直避難でも危

険な場所はあるため、早い段階で避難行動をとっていただくようお願いしたいと思う。

国土交通省が計算された浸水は、およそ1000年に一度あるかないかの大雨を想定したものである。土砂降りの雨が48時間続いて河川の水位が大きく上昇し、堤防も越えて住宅等が押し流されそうになるようなことが起こった場合の浸水想定である。これは過去に関東で発生した大きな水害を教訓に、国土交通省がシミュレーションしてデータ化し、活用してもらおうと取組まれたものである。これも活用していただき、地区の状況をあらかじめ皆さんで承知していただくようお願いしたいと思っている。

（危機管理局長）

この美保南地区公民館は、100年に一度の確率である、48時間に325mmの雨が降って浸水した場合、浸水の深さは1.66mと想定されている。確かに浸水域にはあるが、2階以上に避難すれば安全な場所であることを承知しておく必要があると思う。また、浸水の継続時間も、この公民館のあたりでは16.5時間と想定されている。浸水で孤立する避難所もあると思うが、16時間ほど過ごすための水や食糧があれば命の安全が確保できることを承知しておく必要があると考えている。

そうしたことを認識した上で、日頃からしっかり訓練に取り組んでいただければ身を守ることにつながると思っている。

（地元）

市の総合防災マップには小学校等の各施設の収容人員が算定されている。7月の水害のとき、美保南小学校には250人ぐらいの方が避難されてきたが、実際に浸水が始まったら1,000人ぐらいの方が避難されてくるかもしれない。浸水した場合は水洗トイレが使えなくなってしまうので、1,000人が16時間の浸水継続時間を過ごすために、何回トイレを使用することになるかということも考える必要があると思う。地区としてもトイレに関する啓発活動はしているが、予算がないため、トイレ対策を地区で行うことが難しい。避難所を指定され、垂直避難を推奨されるならば、例えば1,000人分のトイレに対応できるぐらいの備蓄資材を、事前に地区に置いていただきたいと思います。

（市長）

美保南小学校はおよそ1,300人避難できると算定している。浸水が始まってすぐにトイレが使えなくなるという状況ではないと思っているが、地震等の場合は水道や下水道、電気といったライフラインが心配である。簡易トイレ等も備蓄をしているため、こういったものも持ち込んで利用していただくことになるかと思っている。

市では食糧、簡易トイレ、毛布、防水シート等、いろいろなものを分散して備蓄をしている。また、来年完成となる新本庁舎の隣に防災備蓄倉庫を建設し、いざというときはそこから備蓄品を運んでいくことを考えている。その他、公民館等にも分散して備蓄をしている。食糧等については集中的に管理する必要があるが、可能なものは分散して備蓄するよう取組んでいるところである。備蓄品等はこれからさらに充実を図り、必要な状況が発生したら直

ちに持ち出せるよう、体制もさらに整えていきたいと思っている。

(地元)

大震災等における初期避難所運営には簡易トイレや保温材、床に敷くシート、応急手当セット、照明装置、可能であれば無線装置といった備蓄資材が必要であるが、今は備蓄されていない。また、これらの資機材を収納する防災倉庫も新たに必要ではないかと考えている。無線装置は、被災状況の通報遅延や支援が後回しになることを防ぐ目的で挙げている。大路川や新袋川等の大きな河川には主要な幹線道路が通っており、その橋が全て被害に遭った場合は徒歩で渡ることができなくなる。インフラがダウンすれば電話が繋がらなくなり、地区から災害に対する支援要請も難しくなるのではないかと考えている。地区に無線装置があれば直接市役所と連絡できると考えているが、現実には整備に要する資金の確保が問題になっている。

(市長)

無線装置等についてはまだ十分に整備されていないが、緊急に連絡をとる必要がある場面はこれからもあると考えている。災害時には携帯電話等が繋がらない場面も想定されるため、複数の情報伝達手段を確保していくことが重要だと思っている。今はコミュニティFMの活用を考えており、来年完成予定の新本庁舎にはFMのスタジオも入ってもらい、例えば災害が発生した場合は24時間態勢で割り込み放送ができるというような取組みを進めて行こうとしている。

災害発生時に情報が途切れないよう、しっかり考え続けていかなければならないと思う。鳥取市では「自主防災会地域防災力強化補助金」という支援制度を作っており、ご活用いただいているところではあるが、まだ十分ではないところがあることは我々も承知しており、市政の最重要課題の1つとしてこれからも充実強化を図っていききたいと思っている。いろいろな意見をいただきながら制度を見直し、必要であれば新しい制度を作っていくこともあろうかと思う。

(地元)

防災対策に対する意識や取組みは地域によって様々だと思うが、特に当地区は一生懸命取り組んでいると思っている。今はどの地区も一律の補助となっているが、地区で作成した防災計画等の長期的な計画に対して、長期間に渡って継続して助成する制度を考えていただけたらと思う。

(市長)

鳥取市では従来から、いろいろな制度を整備させていただいている。例えば、小型可搬式ポンプの修理や更新に対して支援してほしいという声を受け、今年の7月に「自主防災会小型可搬式ポンプ整備補助金」を作らせていただいた。まだまだ不十分なところもあるかと思うが、さらなる充実を図っていききたいと思う。

何年間に渡って計画的に取り組む事業に対しても助成制度があっただけではというご提案については、持ち帰って検討させていただきたいと思う。新しい取り組みをモデル的にしていこうという地区においては、従来の制度とは別に支援させていただくこともあり得るかと思っている。

#### （危機管理課補足）

熱心に防災活動を行う地域に対し、「新しい取り組みを行うモデル地区」として新たな支援を充実させていただくことは、自主防災会全体の活動を行う意欲の向上に繋がると考えます。

まずは、具体的な取り組みや、希望する助成の内容をお聞かせいただきたいと思います。

#### （地元）

7月に避難があったとき、公民館と小学校で避難所の開設をし、市からは2名の職員が派遣されてきた。ただ、公民館運営マニュアルでは避難所の運営は派遣された市職員の指示を受けて対応することとなっているが、市から来られた職員も本部との情報連絡が優先的になり、避難所の運営にまで手が回らないのが実態であった。小学校での避難所の運営には自主防災会が関わり、中にはボランティアで食糧の配布に協力いただいたという経緯もあり、市と地域が役割分担をして避難所を運営していくことが必要ではないかと思っている。役割分担が事前に分かれば、地域としても対応しやすいと思う。そういった点についてお聞きしたい。

#### （市長）

災害発生時に、市の職員が直ちに駆けつけられない場合も想定されるため、地域の皆さんに避難所の開設をお願いさせていただく場面もあると考えている。避難所には市の職員を大体2名か3名配置するようにさせていただいているが、配置された職員が地域の全てのことを取り仕切るとは難しいのではないかと考えている。

大雨等についてはある程度予見ができるため、避難所の開設等も職員で行うことは可能だが、初期対応等についてはできる限り地域でお願いできたら大変ありがたい。ある程度災害の状況が落ち着いてきたら、公助の部分が全面的に対応していくことになると思う。運営に当たっては市から派遣する職員がその避難所の責任者ということになるが、地元の皆さんのご理解とご協力をお願いしたいと思っている。

#### （地元）

当地区では備蓄倉庫が河川を挟んだ先にある。市の職員がすぐに来られなくても、地区の人間で備蓄品の調達ができるよう、大路川よりも南側に備蓄倉庫を配置することが可能であれば、検討していただきたい。災害が発生した場合、河川を渡っての備蓄品の移動や配布は難しいと思う。

(市長)

来年には新本庁舎が完成し、同じような時期に防災備蓄倉庫も隣に確保する。これを機に全市的に備蓄品の配置をどうすべきかを考えていけないと思う。河川を挟んだ倉庫からの備蓄品の調達は、河川が増水した場合は難しいのではないかとということも十分想定しながら検討させていただきたいと思う。

(危機管理課補足)

本市では、鳥取市備蓄整備計画に基づき、備蓄する品目や備蓄品の保管場所等を定めています。備蓄品の配置については、大量の物資を集中して備蓄する「拠点備蓄」と、各地区公民館・小学校などの公共施設や新市域の防災拠点となる総合支所での「分散備蓄」の形態としています。現在、新本庁舎（幸町）西側に本市の備蓄拠点として建設中の防災備蓄倉庫の完成及び県・県内市町村との連携備蓄の見直しのタイミングなどを捉えて、発災時でも各避難所へ効率的かつ安定的に備蓄品を供給できるよう改善に努めていきたいと思っております。

(地元)

鳥取市で実施されている、総合的な防災に対する会議はどんなメンバーで構成されているのだろうか。学識経験者や専門的な方も必要だと思うが、地元の防災リーダーとして活躍している方を加えることによって、生きた対策が出来るのではないかとと思う。そういった方の登用を検討してはいかがだろうか。

(市長)

自主防災連合会等の市全体の組織や、防災計画を策定してそれを審議いただく会議等もある。学識経験者の方のご意見も専門的な見地として尊重しなければならないが、地域の最前線を経験されている方のご意見等も非常に貴重なものと思っているので、いろいろな場面でまた活躍いただければと思っている。

(市長あいさつ)

本日は現場の豊富な経験を基にされた、いろいろなご意見やご提言をたくさんいただきました。持ち帰って検討し、具体化させていただきたいと思っている。災害はいつ発生するか分からないため、被害を最小限に食い止めるには日頃からの備えが一番重要である。鳥取市としてもいろいろな制度を作り、取組んできているが、それが十分な備えかと言われるとそうではないということを改めて認識しなければならないと思っている。

少しでも地域の防災力を高めていくため、市政の最重要課題の一つとして位置づけながら、これから取組んでいきたいと思っている。自助・共助・公助が重要な部分になると考えており、我々も精一杯取組ませていただきたいと思います。地域の皆さんも改めてご認識いただき、平素から備えについて取組んでいただければ大変ありがたい。